

大正四年



發行

第廿卷

自第一〇八号
至第一一九号

大正會雜誌



第十二卷

第一號

(第八百號)

臺灣醫學專門學校大正會

十全會雜誌(第二十卷第八號)目次

○原著及實驗

- 稀有ナル眼瞼癌腫ニ就テ。 田上清貞
- 早發痴病ノ一異型ニ就テ。 福田美明
- 鬼胎分娩ニ就テ。 諸橋林太郎

○雜錄

- 久保武氏學位記及ヒ論文要旨。
- 十全會學術實習部に就テ。 醫四 入山義臣

○通信

- 石橋四郎氏通信。

○雜報

- 講話部例會。 ●第三學年級會議。

○叙任及辭令

- 文部省。 ●內閣。 ●海軍省。 ●金澤醫學專門學校。 ●石川縣。

○人事

- 福岡喜洋氏。

○會告

- 大正二年度十全會費收入決算報告。
- 大正二年度金澤醫學專門學校十全會收入決算表。
- 大正二年度金澤醫學專門學校十全會費支出決算表。
- 大正二年度金澤醫學專門學校十全會臨時費支出決算表。
- 大正二年度金澤醫學專門學校十全會資金部支出決算表。
- 大正二年度十全會校外特別會員會費收支決算報告。
- 大正二年度金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費收入決算表。
- 大正二年度金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費支出決算表。
- 創立三十五年記念館寄附金第五回報告。
- 校外特別會員會費納付調書。



久保博士

久保博士畧傳

生	所
明治三十一年	石川縣能登國輪島町 第四高等學校醫學部卒業
同	金澤病院婦人科醫員拜命
同 三十二年	東京醫科大學解剖學教室助手拜命
同 三十四年	京都醫科大學解剖學教室助手轉任
同 三十六年	愛知縣立醫學專門學校解剖學教諭任命
同 四十年	韓國大韓醫院解剖學教官轉任
同 四十四年	南滿醫學堂解剖學教授轉任
	金澤醫學專門學校教授兼任
大正三年	金澤醫學專門學校教授免任
	南滿醫學堂教授專任
同 三年	醫學博士學位受領(九月七日)

ノ狀態ニアル事多シ要スルニ本病患者ハ最初ヨリ早發癩病ノ症狀ヲ具備スルモ途中種々ノ病型ヲ呈セルト途中昏迷發作隔日位ニ頻發シ忽然醒覺スルガ如キ狀ヲ呈スルト精神痴鈍ノ進行割合ニ少ナルトノ三点ハ稍興味ヲ見出スベク又クレペリン氏ノ分類ニ基クハ本病者ハ最初ハ破瓜病(現ニ某大家ハ破瓜病ト診斷セリ)中途、妄想型ニ移行シ一昨年暮以來昏迷發作ヲ來シテ緊張病ト診斷スベキ複雑ナル經過ヲ取リシコトニシテ吾人ノ淺學無經驗ナル未ダ如上ノ例ニ相違セシコトナク從テ稍興味ヲ以テ診療ニ從事シツ、アル所以ナレバ不完全ナガリ其大要ヲ記載シテ諸賢ノ示導ト垂教ヲ仰グ事トセリ。

雜 錄

●久保武氏學位記及ビ論文要旨

學 位 記

石川縣平民

從七位

久 保 武

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ京都帝國大學醫科大學教授會ニ於テ其大

學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト認メタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條ニ依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク

大正三年九月七日

文部大臣從三位勳二等法學博士 一木喜德郎

論文審査要旨ハ官報第六百三十九號(大正三年九月十六日)ニ掲載セラレアルモ餘リニ簡短ニ失セルヲ以テ左ニ少シク増補シテ掲グルコト、セリ。

論 文 要 旨

朝鮮人ノ體質的人類學補遺

第一 計 測 篇

著者ハ多年日本ニ於ケル人種解剖學的研究ニ從事シ已ニ數度(日本人ノ脊髓、血管、內臟、筋肉、骨格等ニ就キ)其調査成績ヲ發表シタリ明治四十年八月前韓國政府ノ招聘ニ應ジ大韓醫院教官トシテ赴任スルヤ京城ニ在ルコト約四年其間第一ニ朝鮮人ノ生體ニ就テ精密ナル研究ヲ遂ゲ次ニ朝鮮人ノ骨格ノ多數ヲ蒐集シ更ニ朝鮮人ノ死體ニ就テ人種解剖上ノ調査ヲモ行ヒ朝鮮人ノ體質的人類學ノ大成ヲ期セント企テタリ。

本篇ハ實ニ著者ガ朝鮮人生體ニ就テ研究セル人類學の調査成績ノ一部ニ屬スル也

著者ガ朝鮮人生體ニ就キ研究ニ供セル材料ハ二千二百十四名ノ學生、六百五十一名ノ兵士及五百六十名ノ藝妓總計三千四百二十五名ニ上レリ。

但シ學生ニ就テノ調査ハ測定事項僅少ニシテ殊ニ其大多數ハ幼年者ニ屬セルガ故ニ本論ニ於テハ省畧セリ。

此研究ニ於テ著者ガ採用セル方法ハ主トシテシユミツト氏ノ方針ニ從ヒタリト雖計測諸點ノ數一百〇五件ニ達シ其殆ンド半ハ實ニ著者ノ創意ニ出テタルモノトス。

該報告ハ本論及表ノ二部ニ分レ特ニ表ハ上記千二百十一人ノ各個ニ就テ得タル計測數ヲ列記シ、本表ニ準據シ更ニ年齡及生地ヲ區別シ又成年者總數ノ各計測部點ニ對シ性別、平均數、最大數及最小數ニ關スル多數ノ表ヲ編成シタルハ錯雜ナル事實ノ對照上簡要ヲ得テ其勢多大ナルヲ思ハシム。以上ノ成績ハ尙之ヲ日本人、支那人、歐洲人等ニ比較ス、就中日本人ニ對スル比較ハ著者ノ重キヲ措キタルモノニシテ今其要點ヲ擧グルハ即チ左ノ如シ。

第一 全身

一、身長 一般ニ朝鮮人ノ身長ハ日本人ニ比シテ大ナルモ、朝鮮人男子ノ一六四五密迷以上アルモノ又ハ女子ノ一五二五密迷ヲ越ユルモノハ稀ナリ

著者ノ測定ニアレバ、二十歳乃至四十歳ノ男子五百五十名ノ平均一六一三、七密迷アリ

十八歳乃至三十二歳ノ女子百六十九名ノ平均一四七三、一ヲ算ス、即トビナル氏ノ身長ノ分類ニ對比スルハ男女共ニ(世界人類ノ平均身長ヨリ小ナル部類ニ屬スルナリ)

男女兩性ノ差違ニ就テハ女子ハ男子ニ比シ小ナルモ其差隔ハ日本人ノソレヨリモ稍々大ナリキ

二、體重 朝鮮人五百五十二名ノ男子平均五五、六二四、百四十四名ノ女子平均四九、九五三基瓦ヲ算セリ、之ヲ日本人ニ比較センカ、朝鮮ノ男子ハ普通ノ日本ノ男子ニ比シ稍々大ナリ然ルニ女子ハ反之僅ニ小トナレリ男女兩性ニ就テハ朝鮮人ノ男女ノ差異ハ日本人ノソレヨリモ大ナルヲ知レリ

今若シ身長及體重ノ成績ヲ同時ニ觀察センカ朝鮮人男子ハ普通ノ日本人男子ニ比シ一ノ大ナル身長、體重ヲ有ス然ルニ女子ハ身長ハ日本人女子ヨリモ僅ニ大ナリシニ拘ラズ體重ハ却テ僅ニ小ナルヲ知レリ

於是乎朝鮮人女子ハ男子ニ比シ一般ニ體格薄弱ナルベキヲ推定セリ

第二 頭部

三、頭ノ長徑 五百五十二名ノ男子平均一八一、四密迷(身長ノ一、二四%)アリ百二十名ノ女子平均一七五、七(一一、九三%)ヲ算セリ即男子ハ日本人ニ比シ稍々小トナリ、女子ハ日本ノ中流及上流女子ニ比シ僅ニ大ナリシモ下流ノ女子ヨリモ比較的長徑ハ小ナリキ

四、頭幅徑 五百五十二名ノ男子平均一五〇、九(九、三五%)アリ百二十名ノ女子平均一四六、三(九、九三%)アリ即朝鮮人ハ(男女共ニ)日本人ニ比シ絕對的及比較的遙ニ大ナリ

約言スレバ朝鮮人ノ頭ハ日本人ニ比シ幅弘キ形ヲ呈ス

五、頭比率 ハ五百五十二名ノ男子平均八三、一九百二十名ノ女子平均八三、二七トナレリ、故ニ兩性共ニ短頭型(廣頭型)ノ部類ニ屬ス

實ニ朝鮮人ノ頭形ノ(短頭型)ナルコトハ既ニ生體ニ就キ外觀上容易ク認知シ得ベキコト程著明ナリ

六、頭ノ地平周圍 五百五十一名ノ男子平均五四二、九三三、六四%九十名ノ女子平均五二七、五三五、八一%ナリ故ニ男女共ニ日本人ニ比シ稍々小ナリ

七、容貌上顏高(頤—頭髮發際) 五百二十四名ノ男子平均一八六、九(一五、八%)百三十五名ノ女子平均一七七、二密迷(一一、〇三%)アリ、朝鮮人男子ハ日本ノ上流及下流者ニ比シ小ナリ(只日本ノ學生ニ比シテ大ナルノミ)反之女子ハ日本ノ上流及中流者ニ殆ンド同ジク下流者ヨリハ稍々大ナリ

ベルツ氏ハ日本人ノ顔面ノ長キ(高キ)ヲ以テ特徴ノ一トセリ著者ノ計測ニヨレバ朝鮮人ノ顔面モ亦比較的長ク(高ク)即歐洲人ヨリモ日本人ニ近キヲ知レリ

八、形態上顏高徑(鼻根—頤) 五百五十二名ノ男子平均一一五、六(七、

一六% 百四十二名ノ女子平均一〇五、九(七、一九%)アリ日本人ニ就テ比較シ得ザリシモ北支那人ニ比シテハ小ナルコト(低キ)ヲ知レリ

九、類幅(顔幅) 五百五十一名ノ男子平均一四四、三八、九四% 百四十三名ノ女子平均一三七、〇(九、三%)アリ即朝鮮人ハ日本人ニ比シ確ニ大ナリ(幅弘シ)男女両性ニ就テハ女子ハ男子ニ比シ絶對的小ナリ然レモ比較的二於テハ僅ニ男子ヨリモ大ナリキ

一〇、形態上顔比率 ハ男子八〇、一一女子七七、三〇トナレリ(骨格ニ就テハ低型ニ屬ス)

一一、容貌上ノ顔比率 ハ男子一二九、五二女子一二九、三四ヲ算ス

一般ニ朝鮮人ノ顔比率ハ日本人ヨリモ大ナレリ即朝鮮人ノ顔面ハ日本人ニ比シ高徑ニ於テヨリモ、幅徑ニ於テ遙ニ大ナル(弘キ)形ヲ有スルナリ(約言スレバ朝鮮人ノ顔面ハ低型ニ屬スルナリ)

(附記) 其他外貌上ノ特徴トスベキハ朝鮮人(殊ニ女子)ノガ一般ニ頭髮發際縁ヲ上方及側方ニ剃リ上アルノ風習アルガ爲メ一見シテ前額ノ高ク弘キ觀ヲ呈スルコト是レナリ

一二、眼裂ノ長サ 五百四十五名ノ男子平均三二、〇(一、九八%)百二十八名ノ女子三〇、三(二、〇六%)ヲ算シ日本人ニ比シ大ナリ(長シ)

一三、眼裂高徑 三百三十八名ノ男子平均六、五(〇、四〇%)ヲ算ス日本人ニ比シ小ナリ

要スルニ朝鮮人ノ眼裂ハ日本人ニ比シ狭キ長キ形ヲ示ス

一四、内眥間距離 五百四十五名ノ男子平均三六、五(二、二六%)百二十八名ノ女子平均三五、七(二、四二%)アリ日本人ニ比シ數密迷大ナリ内眥間ノ距離ノ弘キコトモ亦此民族ノ特徴ノ一トス

一五、鼻ノ高徑(長サ) 五百五十一名ノ男子平均四九、一(三、〇四%)百三十五名ノ女子平均四二、六(二、八九%)アリ即朝鮮人ハ日本人ニ比シ稍小ナリ

一六、鼻ノ幅徑 五百五十一名ノ男子平均三七、六(二、三三%)百二十三

名ノ女子平均三四、七(二、三六%)アリ即朝鮮人ノ鼻幅ハ一般ニ大ナリ、(殊ニ女子ニ於テ比較的弘シ)

一七、鼻比率ハ男子平均七六、五八女子八一、四六ヲ算ス故ニ朝鮮人ノ鼻ハ平均中型鼻ニ屬スレモ著シク扁鼻型ニ傾ケリ殊ニ女子ニ於テ然リ

一八、鼻ノ深サ(高サ) 三百六十一名ノ男子平均一九、一(一、一八%)百二十四名ノ女子平均一八、一(一、二三%)ナリ即朝鮮人ノ鼻ハ甚ダ低シ

一九、口裂ノ幅(長サ) 五百五十五名ノ男子平均五一、四(三、一九%)百二十九名ノ女子平均四六、〇(三、二二%)アリ

二〇、口裂ノ高徑 三百五十一名ノ男子平均一八、四(一、八四%)アリ即朝鮮人ノ口裂ハ日本人ヨリモ稍々大ナルガ如シ

二一、耳ノ長徑 五百五十名ノ男子平均六二、〇(三、八四%)百四十八名ノ女子平均五七、一(三、八八%)アリ

朝鮮人(殊ニ女子)ノ耳長ハ日本人ヨリモ小ナリ

二二、耳幅 五百五十名ノ男子平均三一、五(一、九五%)百四十七名ノ女子平均三〇、二(二、二二%)アリ耳幅モ亦朝鮮人ハ日本人ヨリ小ナリ

二三、耳比率 ハ男子平均五〇、八一女子平均五二、八九ナリ

第三 頸、胸、腹、軀幹、骨盤及外陰部

二四、頸ノ長サA(頤―肩) 男子平均七四、二(四、六〇%)女子四二、二(二、八六%)ヲ算ス

頸ノ長サB(頤―胸) 七十三名ノ男子平均六五、四(四、〇五%)ヲ算ス

二五、頸圍 八十四名ノ男子平均三三、六(二、二〇%)八四%アリ

朝鮮人男子ノ頸ハ日本人ノ勞働者ニ比シ細長ナリ是レ蓋シ肩胛ノ形ノ著シク傾斜セルコトモ其一因タランカ女子ハ反之男子ニ比シ甚ダ短ナリ

二六、肩幅 五百四十二名ノ男子平均三六、八(二、二、八四%)百三十九名ノ女子平均三一、八(二、一、五九%)ナリ

朝鮮人ノ肩幅ハ男女共ニ日本人ニ比シ小ナリ肩ノ狭キコトモ亦實ニ此民族ハ一特徴タルベシ

二七、胸廓前後徑 五百五十二名ノ男子平均一八七、〇(一一、五九%)百十三名ノ女子平均一五三、〇(一〇、三九%)アリ

二八、胸廓ノ横徑 五百五十二名ノ男子平均二五四、三(一一、七六%)百三十九名ノ女子平均二一八、五(一四、八三%)アリ

二九、胸圍 五百五十名ノ男子平均八五七、二(五三、一二%)百二十七名ノ女子平均七〇一、九(四七、六五%)アリ

朝鮮人ノ胸圍ハ日本人ヨリモ稍々大ナリ而シテ胸廓ノ大ナルニ基因ス

三〇、肺活量 五百五十一名ノ男子平均三五〇、一、九立方仙迷アリ、即胸圍ノ大ナリシニ準ジ日本人ニ比シ大ナリキ

三一、腹前後徑 二百三十二名ノ男子平均一七九、一(一一、一〇%)アリ

三二、腹横徑 二百三十二名ノ男子平均二四五、五(一五、二一%)アリ

三三、腹圍 百五十七名ノ男子平均七三六、〇(四五、六一%)アリ

朝鮮人ノ腹圍ハ外觀上其多クハ前下方ニ膨出セルヲ見ルベシ、腹圍ハ日本ノ上流者及學生ニ比シ遙ニ大ニシテ只労働者ニ比シ僅ニ小ナリシノミ

三四、軀幹長(胸一耻) 男子七十三名ノ平均五三八、二密迷ニシテ身長ノ三三、三三(%)ニ當レリ

ベルツ氏ハ日本人ノ軀幹ヲ脚長ニ比較スルハ甚ダ長ク歐洲人ニ比シ遙ニ超越セルヲ以テ、ノ人種の特徴トナセリ、朝鮮人ニ就テ之ヲ檢スルニ又日本人ニ於ケルト同ジク歐洲人ヨリモ比較的長キヲ知レリ

三五、耻高(下半身長) 五百四十四名ノ男子平均七十九、七密迷(身長ニ對シテ四八、三三%)、九十八名ノ女子平均六八、四、五(身長ノ四六、四七%)ナリキ

若シ之ヲ上半身長(顙頂一耻)ト比較センカ上半身ハ歐洲人ニアリテハ僅ニ下半身ヨリ小ナルニ拘ラズ朝鮮人ハ日本人ト同ジク全ク之ニ反シテ上

半身長ハ下半身長ヨリ大ナルナリ

男女兩性ニ就テハ女子ハ比較的上半身長ハ男子ヨリモ僅ニ大ナリキ

三六、脊柱鉛直長徑 二百五十四名ノ男子平均六七七、一(四一、九六%)アリ

三七、脊柱彎曲長徑 二百五十四名ノ男子平均六九六、九(四三、一九%)アリ

朝鮮人ノ脊柱長ハ一般ニ日本人ノ如ク大ナラザルモ歐洲人ニ比シテハ尙常ニ比較的大ナリキ

(附記) 脊柱ノ彎曲ニ就テハ前彎最モ多ク殊ニ胸部ハ後方ニ腹部(腰椎部)ハ強ク前方(腹方)ニ彎曲スルモノ多シ

三八、腸骨櫛間距離(腹幅) 五百四十名ノ男子平均二六八、五(一六、六三%)百三十五名ノ女子平均二六〇、七(一七、七〇%)アリ

即男子ハ日本人ニ比シ絶對的僅ニ大ナリ反之女子ハ日本人(女子)ニ比シ甚ダ僅ニ小ナルナリ

男女兩性ノ差ハ著シク換言スレバ男子ハ女子ニ比シ甚ダ大ナリ

三九、前上棘間距離 五百二十二名ノ男子平均二四八、四(一五、三九%)アリ絶對的、比較的共ニ日本人ヨリ遙ニ大ナリ

四〇、大轉子間距離 五百〇五名ノ男子平均三〇〇、〇(一八、五九%)百二十五名ノ女子平均二八九、八(一九、六七%)アリ

朝鮮人ノ男子ハ日本人ト比較的殆ンド同ジキモ女子ハ反之日本人(女子)ニ比シ大ナルガ如シ

四一、外結合線 四百五十九名ノ男子平均二〇〇、七(一二、四四%)ナリ即朝鮮人ノ外結合線ハ絶對的ニモ比較的ニモ日本人ヨリ著シク大ニシテ殆ンド歐洲人ニ讓ラザルガ如キハ最モ注意スベキ特徴トス

四二、骨盤周圍 七十四名ノ男子平均八一〇、二(二五、一七%)ナリ朝鮮人ハ日本人ニ比シ稍々大ナルベシ

四三、骨盤傾斜角度 百二十六名ノ男子平均四十八度六分ナリ日本人ヨ

リ大ナルモ歐洲人ヨリ小ナルガ如シ

要スルニ朝鮮人ノ骨盤ニ就テ外結合線ノ大ナルハ、最も著明ノ点ニシテ、其他、腸骨間距離、前上棘間距離、及大轉子間距離ノ多少大ナリシニ準シ、朝鮮人骨盤ハ一般ニ比較的日本人ヨリモ小ナルコトヲ知ルベシ

四四、陰莖ノ長サ 四十一名ノ平均八九・九五・五六(%)アリ

四五、陰莖體ノ長サ 三十五名ノ平均六四・七密迷(四・五〇%)アリ

四六、龜頭ノ長サ 三十五名ノ平均二五・八密迷アリ身長ノ一・五九%ニ

當レリ

朝鮮人ノ陰莖ノ長サハ日本人ニ比シ僅ニ大ナリ然ルニ龜頭ノ長サハ却テ日本人ニ比シ短(小)ナルヲ知レリ

第四 四肢

其 一 上肢

四七、上肢長 五百五十一名ノ男子平均七一〇・九(四四・〇五%)アリ百

四十四名ノ女子平均六四四・七(四三・七六%)ナリ

朝鮮人男子ノ上肢長ハ日本ノ勞働者ヨリモ稍々小ナリシモ上流者及學生ニ比シ大ナリシナリ

女子ハ日本ノ中流者ニ比シ同シキモ上流及下流者ニ比シ稍々小ナルヲ知レリ

男女両性ニ就テハ日本人女子ノ比較的上肢長ハ男子ノソレヨリ大ナリシモ朝鮮人女子ノ上肢長ハ絶對的、比較的共ニ男子ニ比シ小ナルヲ知レリ

四八、上膊長 五百十三名ノ男子平均三〇〇・三(一八・六一%)アリ、即日本人ニ比シ大ナリ

四九、前膊長 五百十三名ノ男子平均二三一・三(一四・三三%)ナリ

朝鮮人ハ日本人ノ上流者及學生ヨリ比較的僅ニ大ナルガ如キモ日本ノ勞働者ニ比シ甚ダ小ナリキ

要スルニ朝鮮人ノ上膊ノ長サハ日本人ヨリモ大ナリシ程、前膊ノ長サハ大ナラズ

但シ上膊長ハ前膊長ニ比シ常ニ大ナルコトハ兩者全ク相一致セリ

五〇、上膊ノ周圍 右百〇九名ノ男子平均二三八・七(一四・七九%)左百

三十五名ノ平均二三〇・五(一四・二九%)ナリ

朝鮮人男子ノ上膊圍ハ日本ノ上流者學生ニ比シ殆ンド同シキモ勞働者殊ニ兵士ニ比スルハ遙ニ小ナリ左右兩側ニ就テハ右ハ左ヨリモ稍々(八・二即〇・五%)大ナルナリ

五一、前膊ノ周圍 右百十二名ノ平均二四〇・九(一四・九三%)左百三十五名平均二三三・六(一四・四八%)アリ

朝鮮人ノ前膊圍ハ上膊圍ニ反シ日本ノ上流者及學生ヨリモ稍々大ナリ但シ日本ノ勞働者及兵士ニ比シテハ遙ニ小ナリ

左右兩側ニ就テハ上膊圍ニ於ケルト同シク右ハ左ニ比シ稍々(六・三即〇・四五%)大ナルヲ知レリ

更ニ上膊圍ト前膊圍トヲ比較スルニ左右兩側共ニ前膊圍ハ平均上膊圍ヨリモ大ナリキ

然ルニ日本人ニアリテハ只上流者(兩者殆ンド同シ)ヲ例外トシテ他ハ皆上膊圍ハ前膊圍ヨリモ稍々大ナルガ如シ

五二、手ノ長サA、(手關節下皺襞ヨリ中指尖端迄) 二百〇九名ノ男子平均一八〇・二(一一・一七%)百四十四名ノ女子平均一五九・八(一〇・八五%)アリ

手ノ長サB、(橈骨莖狀突起ヨリ中指尖端迄) 五百十三名ノ男子平均一八一・〇(一一・二二%)アリ

朝鮮人ノ手長(B)ハ日本人ノソレヨリモ小ナリ

五三、手ノ幅 二百〇八名ノ男子平均八二・九(五・一四%)百四十五名ノ女子平均七三・三(四・九八%)アリ

朝鮮人ノ手幅ハ日本ノ學生ヨリ僅ニ大ナルモ上流者及下流者ヨリハ小ナリ
更ニ手長ト手幅トハ關係チ比較スルニ朝鮮人ノ手ハ長、幅共ニ日本人ニ比シ多クハ小ナルモ殊ニ幅ニ於テヨリモ長サニ於テ著シク小ナルコトヲ知レリ換言スレバ朝鮮人ノ手ハ日本人ノ手ヨリモ小ナガラ比較的幅弘キ(短キ)割合ノ形ヲ示セルナリ

其二 下肢

五四、下肢長 五百四十七名ノ男子平均七九五、三(四九、二八%)百四十一名ノ女子平均七二一、六(四八、九九%)アリ

即朝鮮人男子ノ下肢長ハ日本ノ上流者及労働者ニ比シ甚ダ僅ニ小ナリ反之日本ノ學生ヨリ稍々大ナリ、女子ハ日本ノ下流者ニ殆ンド同ジキモ中流者及上流者ニ比シ稍々大ナリ

然レモ身長トノ比較上朝鮮人ハ支那人、歐洲人ヨリモ多ク日本人ニ近キ關係ヲ示セリ

詳言スレバ朝鮮人ノ下肢長ハ日本人ニ於ケルガ如ク身長ノ半分(身上折半)ニ比シ常ニ短シ是亦人種的一特徴タランカ

五五、大腿ノ長サA、(膝蓋骨上緣ヨリ大轉子迄) 五百十五名ノ男子平均三二九、八(二〇、四四%)アリ

大腿ノ長サB、(膝蓋骨中点ヨリ大轉子迄) 七十四名ノ男子平均三五二、七(二一、八四%)アリ

朝鮮人ハ大腿長ハ一般ニ日本人ニ比シ稍々短シ

五六、下腿長A、(膝蓋骨上緣ヨリ外踝迄) 五百十四名ノ男子平均四〇三、八(二五、〇二%)アリ

下腿長B、(膝蓋骨中点ヨリ外踝迄) 七十四名ノ男子平均三七七、二(二三、三六%)ナリ

朝鮮人ノ下腿長ハ大腿ニ反シ日本人(男子)ヨリモ稍々長シ

今大腿長ト下腿長トハ關係チ比較スルニ日本人ハ兩者ノ間著シキ差異ナキガ如キモ而モ大腿長ハ常ニ稍々長キノ傾キアリ然ルニ朝鮮人ニアリテハ反之下腿長ハ大腿長ニ比シ長キヲ見ルナリ

要スルニ日本人ノ下肢長が上半身長トノ比較上甚ダ短キガ如キハ主トシテ下肢殊ニ下腿長ノ短キニ由來スベシ

實ニベルツ氏ニヨレバ日本人ハ大腿ハ下腿ヨリ多ク長シト云フ(破格トシテ女子ノ中流者ノ大腿長ハ下腿長ヨリ稍々短カリシモ)朝鮮人ハ反之大腿長ハ下腿長ヨリモ多少短キヲ知レリ

五七、大腿ノ周圍 右二百十三名ノ男子平均四八一、一(二九、八一%)アリ

左二百十三名ノ平均四七五、一(二九、四四%)ナリ

左右共ニ日本人ヨリモ大ニシテ殆ンド歐洲人ニ近シ、左右兩側ニ就テハ右ハ左ヨリモ稍々大ナルヲ知ルベシ

五八、下腿ノ周圍 右二百十三名ノ男子平均三三九、一(二二、〇一%)アリ

左二百十三名ノ平均三三八、一(二〇、九五%)ナリ

日本人ニ比スルニ日本ノ労働者ハ著シク大ニシテ朝鮮人ヨリモ甚ダ僅ニ超越セルガ如キモ日本ノ上流者及學生等ハ朝鮮人ニ比シ一般ニ稍々小ナリ

左右兩側ニ就テハ右ハ左ヨリモ甚ダ僅ニ大ナルヲ知ルベシ

五九、足長 三百六十名ノ男子平均三三九、八(一四、八六%)アリ、五十

六名ノ女子平均一九四、二(一三、一八%)ナリ

男子ノ足長ハ日本人ニ比シ只僅ニ大ナルガ如キモ女子ハ反之絶對的及比較的共ニ甚ダ小ナリ

六〇、足幅 三百五十九名ノ男子平均九二、七(五、七四%)アリ五十五名ノ女子平均五六、二(三、八二%)ナリ

男子ノ足幅ハ只日本ノ學生ヨリモ甚ダ僅ニ大ナリシモ上流者ニ比シテハ殆ンド同シク下流者ニ比スルハ遙ニ小ナリキ

反之女子ノ足幅ハ驚クベク小ナルヲ知レリ

實ニ朝鮮人(女子)ノ足幅ノ絕對的、比較的共ニ著シク小ナルコトハ最も特殊ナル点トス

足長ト足幅トノ關係ヲ比較スルニ朝鮮人ノ足ハ一般ニ狭キ且比較的ニ長キ形ヲ示ス

殊ニ女子ノ足ノ絕對的小ニシテ極度ノ狭足ヲ現ハセルコトハ最も特筆スベキ處トス

著者ハ猶本篇ノ終リニ於テ支那人、日本人及朝鮮人合計二十名ノ頭髮ノ横斷面ニ就キ顯微鏡的計測ヲ行ヒ之ヲ本論文ノ追加トシテ發表セリ其成績次ノ如シ

毛髮(顙頂毛)ノ計測

支那人十名ニ就キ(男屍七、男子三名)

男子 長 徑 〇、一二七密迷

短 徑 〇、〇九〇八

比 率 七四、〇〇

日本人四名ニ就キ(内男子三名、女屍一)

男子 長 徑 〇、一三四三

短 徑 〇、〇九二四

比 率 六八、八〇

女子 長 徑 〇、一二三七

短 徑 〇、〇八七九

比 率 七一、〇六

朝鮮人五名(内男子四名、女屍一名)

男子 長 徑 〇、一三二四

短 徑 〇、〇九五四
比 率 七二、〇五
女子 長 徑 〇、一三八五
短 徑 〇、一〇〇八
比 率 七二、七八

即頭髮ノ横斷面ニ於ケル長徑ハ日本人ニ於テ最大トナリ支那人ニ於テ最小トナレリ、然ルニ短徑ハ全ク之ニ反對セル結果ヲ呈セリ、而シテ朝鮮人ノ頭髮ノ横斷面ニ於ケル長短兩徑ノ關係ハ何レモ前二者ノ中間ニ位セリ故ニ毛髮ノ比率ハ支那人ニ於テ最大トナリ日本人ニ於テ最小トナリ朝鮮人ハ其中間ニ位セルナリ

換言スレバ頭髮ノ横斷面ノ形ハ支那人ニアリテハ廣キ橢圓形ヲ示シ、朝鮮人ハ恰モ兩者ノ中間ニ在ルコトヲ知レリ

女子ノ頭髮ニ就テハ尙確カニ論及シ稍難カリシモ只一朝鮮人女屍ニ就テノ兩徑ハ男子ニ比シ稍々大トナリ、一日本人女屍ニ就テハ反之男子ヨリモ稍々小トナリシモ毛髮ノ比率ハ朝鮮人モ日本人モ女子ハ男子ニ比シ平均稍々大ナルコト相一致セリ

從來朝鮮人ニ關スル體質的研究ハ稀少ニシテ夙ニ學界ノ憾ミトスル處ナリ然ルニ今本論著ニ依リ吾人ハ大ニ斯學上ノ知見ヲ擴充スルヲ信ス

以上論文ハ學術上有益ニシテ久保武ハ醫學博士ノ學位ヲ授與セラルベキ資格ヲ有スルモノト認定ス

●十全會學術實習部に就て

醫 四 入 山 義 臣

我十全會學術實習部として小野慈善院に就て實習することを得吾人の幸福蓋し之れにすぐるものなけん。

顧るに從來該實習部は微々として振はざりしものゝ如し、されば本年度より部長林先生、司療醫奥山、近藤岡先生諸氏の熱心により益發展を期せらる、吾人も亦大に努力以てこの斯學研究好材料に努力盡瘁する任を有するものに非るか。敢て言を要せざるも該實習部につきて研究し不幸にして患者の鬼籍に上らんか當病理教室にて剖見し以て生前症狀及死後病變と相互對照することを得その得る所の尠少なざる敢て言を要せざるなり。されば諸君の盡粹により不學鈍才なる實習部委員を指導鞭達せられ採長補短以て十全會有終の美を濟せられん事を希望して歎まざる也、

現在在院者總數

貳貳參名

全 幼年部總數

參〇名

十月より十二月五日迄に於ける往訪者延人員
是が診療患者延人員

壹九五名
貳四八名

寄贈器具藥品類

- | | | | |
|-----------|--------|---------|------------|
| 一、精製綿 | 五 袋 | 十二月八日寄贈 | 柴 野 順 吾殿 |
| 一、イルリガートル | 壹 具 | 十二月十日寄贈 | 第四高等學校二部二年 |
| 一、檢尿器 | 壹 具 | 全 | 故 渡 邊 一 郎殿 |
| 一、体温計 | 壹 個 | 全 | |
| 一、メスチリンダー | 一〇〇 壹具 | 全 | |
| 一、藥品數点 | 全 | | |

通 信

●石橋四郎氏通信

(明治三十七年卒業)

謹啓貴會益々御精榮の段奉慶賀候陳者頃者日に増し冷氣相加り東北地方は

既に紅葉も地に委せんとするの有様いづれ電が雪が近き内に見らるゝこと
と存じ候茲に久々に東北に於ける同窓諸氏の二三消息を述べ會員諸氏に
長夜燈下に校友の近況を御傳へ仕り度き次第に御坐候扱て鎌田勸之助氏は
由利郡本莊町に於て眼科専門を以て盛名高く今春小生由利郡に遊び御面語
を得同氏の成效を見聞し嬉しく存し候又根守成規氏は秋田監獄醫を奉職せ
られ居り同署典獄の信任厚く時々軍醫分團秋田研究會にて御目に懸り居り
申し候次に菊地文彦氏は數代以前より産科を以て専門とせし家系にして殊
に同君は卒業後更に母校小川産科に二年留り研究し歸て父業を繼がれしを
以て産科の菊地とて得られ目下秋田縣平鹿郡幡野村金谷に居られ候が專
ら仁慈を旨とし名利に走らず悠々自適人格益々高く世の生存競争場裡に馳
驅し齷齪たる亞流者の殆んど窺ひ得ざる成效を納め居られ候小生今秋機動
演習に際し偶然金谷に宿泊し十年振にて舊交を暖め誠に愉快なる一日を送
り申し候次に千田常外氏は久しく朝鮮に駐劄せられ小生亦暹羅南に在り
て朝夕病院勤務を共にし殊に相變らずの茶目式を發揮し氏を苦めたること
多々然も溫厚の同氏何時も圓滿なる解決の勞を採られたれば師團交代内地
に歸還に際し多謝々々袂別せしが奇縁盡きず同氏先頃弘前歩兵第三十一聯
隊として赴任せられ今同の機動演習結了後當秋田に於ける師團衛生部懇親
會にて幸氏と會するを得て共に相喜びたる次第に御坐候佐藤武君は歩兵第
五十二聯隊附として弘前にあり氏も亦千田君と等しく懇親會席上にて邂逅
仕り候が至て精武剛健殊に氏の多藝一座をなして感心せしめ候以上その他阿部
時雄君盛岡工兵隊に在り氏と演習醍醐村にて途上一語を交へしのみ時間無
く不本意ながら袂別せしが工兵隊の仙巖峠を越へて歸盛せしを以て爾後途
に會するの暇なかりしは遺憾に存じ候最後に小生相變らずテク／＼として
行軍には靴傷に惱み演習には駈歩に閉口し平日は歩兵第十七聯隊の暗室的
醫務室内に逡巡し平々凡々消光罷在り候間乍他事御休神被下度候先は校友
近況御報迄如此に御坐候勿々以上

十一月十三日

秋田市長野下堀端十三

石橋四郎

雜報

●講話部例會 (十月十四日)

十月十四日此の日空晴れて祥雲霽和氣洋洋眞に講話の好日和午後一時半を期し大講堂に於て本學年第一回の例會を開く。

一、開會の辭

土肥部長

二、歌

醫一楠 教 惠君

君が沈着なる態度は新入一百の會員を代表して餘り在り曰く歴史を按ずるに各時代の特徴は歌によりて大畧推知するを得べし歌は實に時代精神の表徴也之を等しく校歌は校風の反影にして格調雄渾なる校歌は以て校風を振起し得べし。

三、隨感

醫三狩野藤作君

雄偉なる体軀を悠々壇上に運んで曰く何れの國家にも其の國家固有の肉体あり固有の精神在り進んでは固有の疾病在り固有の疾病ある以上は固有の醫學なかるべからず固有の醫學すらなくして醫學の獨立を呼ぶは無謀も甚だしき大喝して降壇。

四、歐洲戰亂を論じ交戦各國の眞相に及ぶ

醫四曾我逸雄君

溫顔の君は急遽の如き拍手に迎へられて登壇

歐洲戰亂の原因は第一平和の墮落に在りと喝破し、進んでロシヤ及ゲルマ

ンの勃興と其の國家主義、普佛及び英獨の關係は戰亂の最大原因をなし近時露國及獨乙の軍事的施設の擴大及皇帝の好戰主義は其の誘因なりと論じ殊に各國の眞相に移りては塊露の葛藤塊塞の反目等大を擱んで微を逸せず用意周到着眼正確恰かも政談をきくが如し君や遂に我が醫界に永住せざるべし好漢自重せよ

五、朝鮮旅行談

醫四鈴木外男君

番外ながら御客さんの御出でになるまでの埋合せに朝鮮旅行談をいたしますと君の得意な身振と黒髭(?)を撫して圓轉滑脱うまく亡國民の風俗を叙するあたり君も亦すみにをけざる一人なるべし。

六、獨乙物語

ドクトル 山本直枝氏

氏は久しく獨乙ミュンヘン大學に研學中の處歐洲戰亂突發前に既に歸朝せられたり留學中の感想として獨乙大學の組織學生の勉學法より説き起し學者諸大家の逸話を挿み學生の氣風社會の風俗等細大もらさず前後約一時間熱心に講話せられしは學生一同の感謝する所又稿を改めて記載するの目あらん。

七、歐洲戰亂談

宮田教授

昨年師は多大の希望を以て渡歐せられ専心ハルレー大學に研學中の處不幸戰亂突然のため此の日に先だつ數日前歸朝せらるるは吾人は先生の不幸も察せず只再び師の健顔を見るを得たるを喜ぶ

師はハルレー退去の有様より歸朝までの経路を、再び見るべからざる此の大戦亂に結び付け而かも戰亂の原因、症候經過等疾病に比較して説明を試み吾人をしてよく戰亂の性質を了解せしめられたり歸朝刻々疲勞大なるにもかゝらず此の講演を快諾せられしは講話部の深く感謝する所也。

八、軍事講話

參謀 新井步兵少佐

數葉の大地圖を掲げ交戦各國の兵力要塞防備より新舊の交戦地帶各國軍の進退等専門的に詳説せられ殊に最後の青島攻圍軍の狀態等最も興味を在り前

後實に二時間半に渡る大講演にて他日稿を改めて精しく報導せしむる所あらんも少佐がかくも熱心に講演せられたるに對して感謝の辭を見出し得ざるをかなしむ。

九、閉會の辭

土肥部長

かくて學生一同起立敬禮して家路につきしはたそがる、午後六時を過ぐる三十分。(布瀬野史)

●第三學年級會誌 (十月十二日)

變り易い空は雨と露とに交る／＼北國の秋を深く彩つた。故山に養つて來た級友の歴へ難い英氣は壯快なる山代の茸持となつて現れた。十月十一日午前五時出發、雨に晦い停車場に集つたものは級長藏光先生初め六十人。東天の白むと共に雲は西へ／＼と壓しやられて瑤瑤色の大空が匂やかに擴がつて行つた。目醒め行く加賀の平野を列車はひた走りに走る。後部の車窓からは合唱する校歌の曲が爽快な朝の空氣を頭はせて流れた。動橋から車を捨て、秋草の露をしだきつゝ山代に向つた。着くさ先發して万事を取はからつて居た永島、川北兩君に迎へられ吉田屋に一ト休する。やがて一隊は三人の案内者に導かれて松茸山に向つた。露の深い秋の山ふさこりに分け入るさ茸の強い香は林に溢れた。

有るは／＼歩々の間松が根葉の下、此所にも彼所にも関を掲げて居る、見る／＼腰の籠は重くなつた。盡きぬ名残を惜みつゝ下りた時には一行の獲物は二貫に垂なんとする山を築いた、更に新設の電車によつて山中に入り黒合に芭蕉の跡を訪ひ、十景の秋を稱たへ、白鷺の湯の香を包んで歸つた風流連もあつた。

山代公園に上つて南加賀より日本海を納むる眺望をもさぼる人々、又陸軍療養所を訪れた人々もあつた。

午後三時吉田屋の大廣間に級會が開かれた。先づ藏光先生立つて開會を宣すると共に眞の成功は健康によつて初めて克ち得らるゝものであるから諸君は在校中も社會に出ても常に運動によつて神身の鍊磨をなし以て理想の實現に奮進せよと訓し先生も冷水浴を實行することを語らる。澤井君一同を代表して今日あだかも金澤に於て醫師會のありしにも拘らず先生が特に吾等が會に御出席下さつたことを感謝し併せて御訓辭に副はんことを誓つた。かくて茶菓出で餘興は橋君の痛快なる軍歌によつて幕を落された。牧野君は藥劑師を、野村君は十全會雜誌を、兼子君は山中溫泉を相手として辛辣な攻撃の氣焔を掲げる。水島宣君の五十音即席話、佐野君は得意の活辯式態度の手品は觀衆の眼を奮つた、徳弘君の Judo 演習はよく稱次嘲罵を窮め盡して喝采を博し、入澤君の吟詩に岸君の尺八舞、其他雅俗さま／＼の唄、百態の藝何時盡くるとも見ぬ。川北、水島、兩君の漂渺たる竹聲は秋の日の早や暮れなんとする重き空氣を震はせて聽者を恍惚の國に拉し去つた。一陽より起る牛村ガツサンの美音は時に一枝の花を加へた。かゝる間に獲物の茸は香の高い羹となつて運ばれ、一堂に樂しき夕餉を卒へてこゝに會を閉ぢぬ。

稻刈や抜くや田に焚く夕煙(土朗)のこめたる月なき野路をたどり動橋より終列車にて早や夜も深き金澤驛に下り立ちて萬歳聲裡に未だ香の残れる袂を別つたは正に十時を過ぐる五分であつた。(白兎記)

叙任及辭令

●文部省 (十一月六日)

七級俸下賜

金澤醫學專門學校教授醫學博士 加藤 寛

●内閣 (十一月六日)

依願免本官

金澤醫學專門學校教授醫學博士

加藤 寛

●海軍省 (十二月一日)

任海軍軍醫中監

海軍軍醫少監正六位勳四等功五級 中野 才幸(三)

任海軍中軍醫

海軍少軍醫正八位 萩 原 忠(四)

●金澤醫學專門學校

十一月二日

依願囑託ヲ解ク

金澤醫學專門學校講師 村上 庄太

十一月十七日

依願囑託ヲ解ク

化學及分析學實習授業補助 和田源五郎

雇申付 月俸金拾六圓給與

金澤醫學專門學校藥學士 野澤 兼吉

化學及分析學礦物學副手ヲ命ス

十一月二十六日

自今月俸金貳拾壹圓給與

雇 柴 野 順 吾

雇申付 月俸金貳拾圓給與

金澤醫學專門學校醫學士 石 黒 四 郎

衛生學及細菌學副手ヲ命ス

十一月三十日

依願囑託ヲ解ク

金澤醫學專門學校講師 福 岡 喜 洋

十二月五日

藥學科副手ヲ囑託ス

石見谷 拾 一

●石川縣

十一月二十六日

金澤病院醫員ヲ命ス 十二給俸

松澤 堅 二(四)

皮膚及花柳病科勤務ヲ命ス

十二月七日

全上 眼科部勤務ヲ命ス

栗山 光太郎(大三)

人 事

●福岡喜洋氏(三五年)

久しく金澤市立櫻木病院醫員として勤務の旁本校細菌學講師として後進の爲め教鞭をこられたりし同氏は今回公務を辭し金澤市古寺町にて開業せられたり。

會 告

●大正二年度十全會費收入決算報告

大正二年度金澤醫學專門學校十全會費別紙ノ通り決算ヲ遂ケ候結果收入ニ於テ金參拾貳圓七拾九錢ヲ減シ支出ニ於テ金百六拾參圓九拾五錢差引金百參拾壹圓拾六錢ヲ剩餘ス而シテ該金額ハ會則第拾六條ニヨリ資金ヘ組入スヘキ處本年五月協議會ニ於テ運動會ハ諒閣中ニ付中止シ同會費百九拾圓折半シ一部ハ圖書購入費ニ充テ一部ハ翌年度ヘ繰越使用ノ事ニ決議ニヨリ該金額ヲ控除シ殘金參拾六圓拾六錢ハ資金ヘ組入スヘキモノナリ
資金ハ大日本帝國政府四分利公債証書額面千參百圓並ニ金五百五拾圓六拾

參錢參厘ノ處大正二年五月開催ノ協議會ニ於テ資金參百七拾貳圓貳拾五錢
參厘圖書購入費等ニ支出セリ
故ニ現在資金內譯左ノ如シ

大日本帝國政府四分利公債証書額面千參百圓也

金百七拾八圓參拾八錢

內

金五拾七圓五拾貳錢

金八拾四圓七拾錢

內

金七拾七圓六拾八錢

金七圓貳錢

內

金貳圓七拾參錢

金四圓貳拾九錢

金參拾六圓拾六錢

尙外ニピアノ「購入基金九拾參圓六拾四錢貳厘及運動會費繰越金九拾五圓
アリ
依テ翌年度繰越現金參百六拾七圓貳錢貳厘ナリ
右報告 候也

●大正二年度金澤醫學專門學校

十全會收入決算表

科	目	豫算額	收入濟額	豫算額ニ比シ 收入濟額差 増減	備考
第一款	金澤醫學專門學校十全會	一、六〇・三六〇	一、五七・二〇〇	—三・一六〇	

第一項	特別會員寄附金	一、一五・九〇〇	一、一四・七六〇	一、一四・四〇〇	俸給額少
第一目	職員寄附金	一、一五・九〇〇	一、一四・七六〇	一、一四・四〇〇	ナカリシ ニヨル
第二項	通常會員會費	一、二〇・〇〇〇	一、二〇・五〇〇	一、二〇・五〇〇	入會者少 ヨリ
第一目	醫學生會費	一、〇七・〇〇〇	一、〇五・三五〇	一、〇五・三五〇	
第二目	藥學生會費	三三〇・〇〇〇	一九七・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	同
第三項	入會金	二二〇・〇〇〇	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	同
第一目	入會金	二二〇・〇〇〇	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	
第四項	利金	七四・四〇〇	八・三四〇	六・五〇	
第一目	預金利子	七四・四〇〇	八・三四〇	六・五〇	

●大正二年度金澤醫學專門學校 十全會費支出決算表

科	目	原豫算額	流用増減 *印ハ減	豫算原額	支出濟額	不用額
經常部	第一款 金澤醫學專門學校十全會	一、五五・三六〇	—	一、五五・三六〇	一、四〇・四四〇	一、四〇・四四〇
	第一項 春季陸上運動會	一九〇・〇〇〇	—	一九〇・〇〇〇	九五・〇〇〇	九五・〇〇〇
	第一目 同上	一九〇・〇〇〇	—	一九〇・〇〇〇	九五・〇〇〇	九五・〇〇〇
	第二項 講話部	七〇・〇〇〇	—	七〇・〇〇〇	七・三三〇	七・三三〇
	第一目 大會費	六八・〇〇〇	—	六八・〇〇〇	六・三三〇	六・三三〇
	第二目 通常會費	二・〇〇〇	—	二・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇

第三項 雜誌部	第一目 雜誌費	四〇・〇〇〇	一・九〇〇	五五・五〇〇	五五・五〇〇	
	第二目 圖書費	四〇・〇〇〇	* 三〇・〇〇〇	三九・六〇〇	三九・六〇〇	
	第三目 通信費	九・〇〇〇	* 二・〇〇〇	九・九〇〇	九・九〇〇	
	第四目 消耗品費	一五・六〇〇	一五・三〇〇	三〇・九〇〇	三〇・九〇〇	
	第五目 製本費	七・〇〇〇	* 四〇〇	六・五五〇	六・五五〇	
	第六目 雜費	一〇・〇〇〇	九・五〇〇	一九・五〇〇	一九・五〇〇	
第四項 ロンテニス部	第一目 部費	一・〇〇〇	* 〇〇〇	九〇	九〇	
	第二目 大會費	六〇・〇〇〇		六〇・〇〇〇	六〇・〇〇〇	
	第五項 劍道部	空・〇〇〇	* 三・〇〇〇	五・四〇〇	五・三〇〇	
	第一目 大會費	一五・〇〇〇	二・三〇〇	一七・三〇〇	一七・六〇〇	
	第二目 獎勵費	七・〇〇〇		七・〇〇〇	七・〇〇〇	
	第一目 大會費	三・〇〇〇	八・八〇〇	四・八〇〇	四・八〇〇	
	第二目 獎勵費	三・〇〇〇	* 八・八〇〇	三・二〇〇	三・二〇〇	
第六項 柔道部	第一目 大會費	七・〇〇〇		七・〇〇〇	七・〇〇〇	
	第二目 獎勵費	三・〇〇〇		三・〇〇〇	三・〇〇〇	
第七項 弓術部	第一目 大會費	三・〇〇〇		三・〇〇〇	三・〇〇〇	
	第二目 獎勵費	三・〇〇〇		三・〇〇〇	三・〇〇〇	
第八項 野球部	第一目 大會費	六・〇〇〇	二・〇〇	六・二〇〇	六・二〇〇	
	第二目 備品費	一五・〇〇〇	* 四・五〇〇	一〇・四〇〇	一〇・四〇〇	
	第三目 獎勵費	三・〇〇〇	* 三〇〇	三・七〇〇	三・七〇〇	
	第八項 野球部	八・〇〇〇	五・三〇〇	三・五・三〇〇	三・五・三〇〇	

第一目 部費	空・〇〇〇	* 二・一〇〇	六・九〇〇	六・九〇〇	
第二目 大會費	二五・〇〇〇	二・一〇〇	一七・一〇〇	一七・一〇〇	
第九項 會務費	三〇・五〇〇	五・九〇〇	三六・四〇〇	三六・四〇〇	
第一目 教務囑託	一九・〇〇〇	* 一八〇	一九・一八〇	一九・一八〇	
第二目 手當	一〇・〇〇〇	六・〇〇〇	一六・〇〇〇	一六・〇〇〇	
第三目 印刷費	五〇	五〇			
第四目 消耗品費	五・〇〇〇	七・五〇〇	三・五〇〇	三・五〇〇	
第五目 雜費	七・〇〇〇	* 七・〇〇〇			
第十項 學術實習部	八・四〇〇		八・四〇〇	八・四〇〇	
第一目 藥品材料費	五・四〇〇		五・四〇〇	五・四〇〇	
第二目 備品費	二〇・〇〇〇		二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	
第三目 雜費	一〇・〇〇〇		一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	
第七項 豫備費	七・八〇〇	* 九・五〇〇	七・三〇〇	五・九〇〇	
第一目 豫備費	七・八〇〇	* 九・五〇〇	七・三〇〇	五・九〇〇	
第三項 端艇基金	一・〇〇〇		一・〇〇〇	一・〇〇〇	
第一目 同上	一・〇〇〇		一・〇〇〇	一・〇〇〇	

●大正二年度金澤醫學專門學校
十全會臨時費支出決算表

臨時部	科目	原豫算額	流用 増減額	豫算現額	支出濟額	不用額	備考
-----	----	------	-----------	------	------	-----	----

第一款臨時部	室・〇・〇〇		室・〇・〇〇		室・〇・〇〇
第一項 野球コート新設費	室・〇・〇〇		室・〇・〇〇		室・〇・〇〇
第一目 ト野球コート新設費	室・〇・〇〇		室・〇・〇〇		室・〇・〇〇

●大正二年度金澤醫學專門學校
十全會資金部支出決算表

科 目	原豫算額	流用 増減額	豫算現額	支出済額	不用額	備考
資 金 部						
第一款 資金部	三七・二・七三		三七・二・七三	三七・二・七三	〇・〇・〇〇	
第一項 資金部支出	三七・二・七三		三七・二・七三	三七・二・七三	〇・〇・〇〇	
第一目 圖書購入費	二九・二・七三		二九・二・七三	二九・二・七三	〇・〇・〇〇	
第二目 ロール購入費	四・〇・〇〇		四・〇・〇〇	四・〇・〇〇		
第三目 ト野球コート新設費	三三・〇・〇〇		三三・〇・〇〇	三三・〇・〇〇	〇・〇・〇〇	
合 計	三七・二・七三		三七・二・七三	三七・二・七三	〇・〇・〇〇	

●大正二年度十全會校外特別會員
會費收支決算報告

大正二年度十全會校外特別會員會費收支決算ノ結果
本年度收入金額 一、一七八・五二〇
ナリ内

自大正三年度會費前納金額 三三三・二〇〇
至大正八年度會費前納金額 八四五・三二〇
ヲ控除シ殘金 六二一・一七〇
ハ本年度實收入金額ナリ 二二三・一五〇
本年度支出済額ハ
ニシテ收入額ニ比シ
ノ剩餘ナ生シタリ而シテ
此金額ハ會則第十六條ニヨリ資金ヘ組入スヘキモノナリ
資金ハ大日本帝國政府四分利公債証書額面參百圓並ニ金七百八拾四圓八錢
參圓ニシテ内譯左ノ如シ
金五百五拾壹圓九拾參錢參厘
金貳百參拾貳圓拾五錢
依テ繰越現金千百拾七圓貳拾八錢參厘ナリ
右報告 候也
前年度分繰越高
本年度剩餘金

●大正二年度金澤醫學專門學校十全會
校外特別會員會費收入決算表

科 目	豫算額	收入済額	豫算額ニ比シ 收入済額差 増 減	備 考
第一款 金澤醫學專門學校十全會特別會員會費	一、二四・三・三〇	一、一七八・五二〇	六六・八・一〇	
第一項 校外特別會員會費	五五・〇・〇〇	五五・〇・〇〇	〇・〇・〇〇	
第一目 大正二年度會費	五五・〇・〇〇	五五・〇・〇〇	〇・〇・〇〇	
第二目 前年度未納會費	二・〇・〇〇	五五・〇・〇〇	五三・〇・〇〇	内二百六十六圓ハ本年以前前納ノモノ
第三目 前納會費	三三〇・〇・〇〇	一三三・〇・〇〇	二〇七・〇・〇〇	

第二項 利 金	七・二〇〇	五・三〇〇	三・八〇〇	自大正三 年度至大 正八年度 前納會費
第一目 預金利子	七・二〇〇	五・三〇〇	三・八〇〇	
第三項 繰越 金	一五・一〇〇	一〇〇・一〇〇	一〇・〇〇〇	
第一目 繰越 金	一五・一〇〇	一〇〇・一〇〇	一〇・〇〇〇	

●大正二年度金澤醫學專門學校十全會
校外特別會員會費支出決算表

科 目	原豫算額	流用増減 *印ハ減	豫算現額	支出済額	不用額
第一款 金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費	六三・二〇〇	—	六三・二〇〇	六三・一七〇	一〇・九三〇
第一項 校外特別會員會費	五八・五〇〇	—	五八・五〇〇	五八・〇〇〇	〇・四〇〇
第一目 雜 誌 費	四六・四〇〇	二五・九八〇	五〇・四八〇	五三・三八〇	—
第二目 通 信 費	六・二〇〇	一・七七〇	四・四三〇	四・九一〇	〇・四八〇
第一節 郵便電信	二五・八五〇	八・七〇〇	三四・五五〇	三四・五七〇	—
第二節 在京囑託員通信料	一〇・〇〇〇	*一〇・〇〇〇	—	—	—
第三節 會員集金費	二六・二五〇	*一六・四〇〇	九・八五〇	九・三四〇	〇・四八〇
第三目 雜 費	三〇・〇〇〇	*八・二七〇	二・七三〇	二・七三〇	—
第二項 豫 備 費	五・六〇〇	—	五・六〇〇	四・一五〇	一・四〇〇
第一目 豫 備 費	五・六〇〇	—	五・六〇〇	四・一五〇	一・四〇〇

●創立二十五年記念館寄附金第五回報告
(十二月十三日迄ノ分〇印ノモノハ現金領取済ノモノ)

金 額

氏 名

一金參圓也

○ 中 川 良 忠殿

一金參圓也

○ 藤 田 孫 太 郎殿

一金五圓也

○ 七 五 三 龜 吉殿

一金五圓也

○ 鎌 田 勘 之 助殿

一金五圓也

○ 安 田 則 人殿

一金五圓也

○ 金 子 太 須 計殿

一金參圓也

○ 今 井 外 吉殿

一金參圓也

○ 影 山 清 美殿

計金參拾貳圓也

累計金壹千五百參拾參圓五拾錢也

▲第四回申込報告後現金領取ノ分

一金五圓也

數 波 重 治 郎殿

一金參圓也

原 伊 之 殿

一金參圓也

佐 藤 改 造殿

以 上

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

自大正三年十月二十七日校外特別會員會費納付調書
至全十二月十三日

金額	期	氏名	金額	自大正三年度 至大正五年度	自大正三年度 至大正五年度	村山 良平殿	金壹圓	自大正三年度分	飯森益太郎殿
金參圓	自大正三年度 至大正五年度	杉本 孝吉殿	金參圓	全	自大正三年度 至大正五年度	山口 芳郎殿	金壹圓	全	石川 精一殿
金參圓	全	涌井 正雄殿	金壹圓	自大正三年度分	自大正三年度 至大正五年度	細田 榮殿	金壹圓	全	井上松三郎殿
金參圓	全	池浦 渡殿	金參圓	自大正三年度 至大正五年度	自大正三年度 至大正五年度	窪美 良殿	金壹圓	全	大村義一殿
金參圓	全	崎山 敏雄殿	金壹圓	自大正三年度分	自大正三年度 至大正五年度	清水 亮殿	金壹圓	全	橋本 澄殿
金參圓	全	北村 誠吾殿	金壹圓	全	自大正三年度分	池田 茂殿	金貳圓	自大正二年 至大正三年度	生沼 曹六殿
金參圓	全	齋藤 喜之吉殿	金壹圓	全	自大正三年度分	橋本 正次殿	金壹圓	自大正三年度分	大橋 豐殿
金參圓	全	林戸 正之助殿	金壹圓	全	自大正三年度分	德久 恒治殿	金壹圓	全	鷺山 謙吉殿
金參圓	全	中島 理吉殿	金壹圓	全	自大正三年度分	渡邊 宗一郎殿	金壹圓	全	堀 米次郎殿
金參圓	全	沼田 準三殿	金壹圓	全	自大正三年度分	小原 隼三殿	金壹圓	全	加納 景成殿
金參圓	全	大木 素夫殿	金壹圓	全	自大正三年度分	大木 則雄殿	金壹圓	全	伊藤 喬殿
金參圓	全	前田 爲吉殿	金壹圓	全	自大正三年度分	奥山 義盛殿	金壹圓	全	伊藤 善之助殿
金參圓	全	柴田 一男殿	金壹圓	全	自大正三年度分	蓮村 外男殿	金壹圓	全	林 正雄殿
金參圓	全	日比 忠男殿	金壹圓	全	自大正三年度分	額 又太郎殿	金壹圓	全	富田 敦貴殿
金參圓	全	池田 謙壽殿	金壹圓	全	自大正三年度分	石坂 直次郎殿	金壹圓	全	富田 直殿
金貳圓	自大正三年度 至大正四年度	田中 信一殿	金壹圓	全	自大正三年度 至大正四年度	伊藤 禮二殿	金壹圓	全	尾倉 一英殿
金貳圓	自大正三年度 至大正四年度	清水 憲策殿	金壹圓	全	自大正三年度 至大正四年度	岡 勝重殿	金壹圓	全	刀禰 有恒殿
金參圓	自大正三年度 至大正五年度	水島 時男殿	金壹圓	全	自大正三年度 至大正五年度	折口 靜殿	金壹圓	全	林 龍門殿
金參圓	全	柴山 金雄殿	金壹圓	全	自大正三年度 至大正五年度	石川 玄真殿	金壹圓	全	遠山 正輝殿
金參圓	全	中西與三次郎殿	金壹圓	全	自大正三年度 至大正五年度	八田 智証殿	金壹圓	全	千葉 玄也殿

金壹圓	大正三年度分	今井 亥三松殿	金壹圓	大正三年度分	高松 岩吉殿	金壹圓	大正三年度分	鷺山 他三郎殿
金壹圓	全	青山 寛之殿	金壹圓	全	轟 茂殿	金壹圓	全	伴 鐸也殿
金壹圓	全	河合 鑑殿	金壹圓	全	井上 只次殿	金壹圓	全	猪木 彦助殿
金壹圓	全	太田 精一殿	金壹圓	全	橋内 兵治殿	金壹圓	全	上原 秀三殿
金壹圓	全	岡田 甚英殿	金壹圓	全	高橋 半也殿	金壹圓	全	飯塚 忠男殿
金壹圓	全	岡崎 有作殿	金壹圓	全	建部 鈴次郎殿	金壹圓	全	平泉 泰雄殿
金壹圓	全	伊藤 精一殿	金壹圓	全	小野 林利一殿	金貳圓	自大正二年度 至大正三年度二ヶ年分	藤井 伊之吉殿
金參圓	自大正三年度 至大正五年度三ヶ年分	今井 外吉殿	金壹圓	全	濱地 藤太郎殿	金壹圓	大正三年度分	中須 熊藏殿
金壹圓	大正三年度分	西 正胤殿	金壹圓	全	高崎 二郎殿	金壹圓	全	鎌田 勘之助殿
金壹圓	全	岩間 定雄殿	金壹圓	全	山田 幸吉殿	金壹圓	全	田村 圓四郎殿
金壹圓	全	小野澤 庄桂殿	金壹圓	全	中谷 正範殿	金壹圓	全	山内 馨二郎殿
金壹圓	全	井上 元殿	金壹圓	全	谷中 正勝殿	金壹圓	全	駒井 定哉殿
金壹圓	全	桑原 益方殿	金壹圓	全	池田 耕殿	金壹圓	全	塚本 富彦殿
金壹圓	全	長久 開一郎殿	金壹圓	全	山田 有登殿	金壹圓	全	勝 股 亨殿
金壹圓	全	遠山 繁殿	金壹圓	全	石 譯 太作殿	金壹圓	全	高野 政二殿
金壹圓	全	豐田 今吉殿	金壹圓	全	竹松 衛殿	金壹圓	全	戸田 伊代治殿
金壹圓	全	岩津 知造殿	金壹圓	全	鳥飼 尹重殿	金壹圓	全	吉池 省吾殿
金壹圓	全	長村 吉太殿	金壹圓	全	田上 清貞殿	金壹圓	全	吉川 孝作殿
金壹圓	全	藏 尙太郎殿	金壹圓	全	高木 安治殿	金壹圓	全	植木 信親殿
金壹圓	全	岡田 總太郎殿	金壹圓	全	村本 笹次郎殿	金壹圓	全	加瀬 順之助殿
金貳圓	自大正二年度 至大正三年度二ヶ年分	大住 惠殿	金壹圓	全	堀 雅壽殿	金壹圓	全	美原文 二殿
金貳圓	全	長谷 眞美殿	金壹圓	全	田村 實殿	金壹圓	全	山口 登殿

金壹圓 大正三年度分

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

植西武彦殿 金壹圓 大正三年度分

田中基保殿 金壹圓 全

勝木千尋殿 金壹圓 全

熊西中藏殿 金壹圓 全

小島佐藏殿 金壹圓 全

山際房次郎殿 金壹圓 全

平松敏四郎殿 金壹圓 全

村松純吉殿 金壹圓 全

駿河尙庸殿 金壹圓 全

瀬尾順四郎殿 金壹圓 全

吉尾開道殿 金壹圓 全

加藤慶三殿 金壹圓 全

加藤健之助殿 金壹圓 全

黑田眞岳殿 金壹圓 全

田中正一殿 金壹圓 全

津川恒殿 金壹圓 全

太田尙男殿 金壹圓 全

大場市男殿 金壹圓 全

熊澤清隆殿 金壹圓 全

栗本保身殿 金壹圓 全

塚崎茂殿 金壹圓 全

梶川靜夫殿 金壹圓 大正三年度分

久保田保治殿 金壹圓 全

柳原隆殿 金壹圓 全

田山退一殿 金壹圓 全

高井魯一殿 金貳圓 自大正二年度二ヶ年分

窪美一久殿 金壹圓 至大正三年度

岡村晋殿 金壹圓 全

渡邊十治殿 金壹圓 全

竹中微殿 金壹圓 全

安田則人殿 金壹圓 全

中野亮之殿 金壹圓 全

黑田孝夫殿 金壹圓 全

竹中精一郎殿 金壹圓 全

白井丈吉殿 金壹圓 全

原久雄殿 金壹圓 全

田中健次殿 金壹圓 全

津田博明殿 金壹圓 全

坪井清澄殿 金壹圓 全

末岡外次郎殿 金壹圓 全

片山良作殿 金壹圓 全

月岡勝治殿 金壹圓 全

中島喜作殿

館保二殿

西村貞俊殿

八賀重造殿

四倉重篤殿

廣瀬竹次郎殿

平手秀敏殿

古丸藤三郎殿

竹園圓隆殿

橘佐内殿

吉村一馬殿

小田利吉殿

小野謙三殿

久保田宮太郎殿

鈴木留次殿

米多外男殿

濱鐵造殿

中田盈疇殿

南部健一殿

重森平一郎殿

重本儀介殿

金壹圓 大正三年度分

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

津田 信吉殿

西坂 武茂殿

星野 正齊殿

渡邊 仙岳殿

橋 薫殿

武藤 匡一殿

岡崎 虎次郎殿

松本 繁正殿

月原 秀範殿

田中 精一殿

吉川 砥直殿

野島 利一殿

杉山 政長殿

鈴木 英男殿

老川 雪房殿

黑田 道純殿

柏倉 藤次郎殿

中原 德彌殿

西尾 貫一殿

太田 長作殿

村松 貞治殿

金壹圓 大正三年度分

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

高橋 重二殿

藤井 溫真殿

山田 外來雄殿

谷澤 一郎殿

說田 順一殿

松川 甫恭殿

吉川 六郎殿

深見 真之助殿

越野 義三郎殿

高澤 甚作殿

中本 和三郎殿

田中 三彌殿

新 次郎吉殿

白石 福三郎殿

中川 喜平殿

加藤 大殿

高田 文齋殿

吉崎 郡太郎殿

林 義輔殿

蒲田 外之助殿

久我 龜殿

金壹圓 大正三年度分

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

金壹圓 全

中村 欣一郎殿

戸谷 慈一殿

堀 政次殿

小鷹 利三郎殿

橋本 監次郎殿

吉田 東秀殿

角田 耕六殿

田濱 仙次郎殿

武波 峯吉殿

重田 稔殿

日野 信次殿

福山 可藏殿

森 義作殿

高澤 冠一殿

得田 易殿

藤田 藤右衛門殿

鈴木 俊定殿

上野 善造殿

柴田 綱三殿

茂居 政治殿

內藤 三太郎殿

小高 和四郎殿

金壹圓	全	西川英二殿	金壹圓	大正三年度分	駒田一正殿	金壹圓	大正三年度分	須田嘉三郎殿
金壹圓	全	星子元眞殿	金壹圓	全	那谷與一股	金壹圓	全	松浦啓三殿
金壹圓	全	原田悅五郎殿	金壹圓	全	崎達郎殿	金壹圓	全	村山常三郎殿
金壹圓	全	林田信平殿	金壹圓	全	佐崎伊久殿	金壹圓	全	武曾三郎殿
金壹圓	全	日下辰吉殿	金壹圓	全	山内兎毛殿	金壹圓	全	若林古福殿
金壹圓	全	中川善松殿	金壹圓	全	竹松常雄殿	金壹圓	全	富田寛殿
金壹圓	全	高伊三郎殿	金壹圓	全	織田信義殿	金壹圓	全	水谷浩一殿
金壹圓	全	吉井康次郎殿	金壹圓	全	五十嵐久十郎殿	金壹圓	全	垣内昇殿
金壹圓	全	富家光雄殿	金壹圓	全	竹中繁次郎殿	金壹圓	全	仙波宏造殿
金壹圓	全	藤井助雄殿	金壹圓	全	才田猶次殿	金壹圓	全	今井七兵衛殿
金壹圓	全	池田菱吉殿	金壹圓	全	諸橋林太郎殿	金壹圓	全	小暮喜一殿
金壹圓	全	安田三木殿	金壹圓	全	北豐吉殿	金壹圓	全	菅野萬平殿
金壹圓	全	福島可輔殿	金壹圓	全	並河櫓六殿	金壹圓	全	春山盛道殿
金貳圓	自大正二年度 至大正三年度 ニケ年分	早瀬三求殿	金壹圓	全	齋藤銀一郎殿	金壹圓	全	吉田圓磨殿
金貳圓	全	藤井最正殿	金壹圓	全	佐藤政太郎殿	金壹圓	全	澤田辰造殿
金貳圓	全	中村德藏殿	金壹圓	全	芦澤孝治殿	金壹圓	全	三上儉治殿
金壹圓	大正三年度分	内藤隆治殿	金壹圓	全	川上操一股	金壹圓	全	大原米次郎殿
金壹圓	全	須藤庄太郎殿	金壹圓	全	高橋壽朔殿	金壹圓	全	寺境壽貞造殿
金壹圓	全	阿波加憲吉殿	金壹圓	全	眞柄佐一郎殿	金壹圓	全	秋山八百藏殿
金壹圓	全	久保武殿	金壹圓	全	木下倉太郎殿	金壹圓	全	山口榮殿
金壹圓	全	古屋興三殿	金壹圓	全	金子義長殿	金壹圓	全	鈴木伊作殿
金壹圓	全	野村敏殿	金壹圓	全	若林篤之殿	金壹圓	全	石倉宗嗣殿

金壹圓 全	松田 泰藏殿	金壹圓 全	坪田 義門殿	金壹圓 全	山口 辰五郎殿		
金壹圓 全	桑島 柳吉殿	金壹圓 全	上水 隆基殿	金壹圓 全	高田 茂一殿		
金壹圓 全	平野 郷治郎殿	金壹圓 全	龍田 恭齋殿	金壹圓 全	武内 清作殿		
金壹圓 全	田口 泰殿	金壹圓 全	高崎 英彦殿	金壹圓 全	谷道 清殿		
金壹圓 全	表 宜明殿	金壹圓 全	勝部 方策殿	金壹圓 全	中山 甲五郎殿		
金壹圓 全	寺本 義一殿	金壹圓 全	莊田 芳根殿	金壹圓 全	住田 立殿		
金壹圓 全	野島 茄三郎殿	金壹圓 全	篠尾 明濟殿	金壹圓 全	石崎 喜一郎殿		
金壹圓 全	眞澤 貞一殿	金壹圓 全	吉澤 祐寛殿	金壹圓 全	松尾 陸一殿		
金壹圓 全	城石 健治殿	金壹圓 全	關 承五殿	金壹圓 全	天野 幸二郎殿		
金壹圓 全	近藤 時男殿	金壹圓 全	小山田 基殿	金壹圓 全	鎌尾 萬明殿		
金壹圓 全	清水 秀夫殿	金壹圓 全	朝日 吳殿	金壹圓 全	栢原 直次郎殿		
金壹圓 全	木下 克雄殿	金壹圓 全	明石 秀次郎殿	金壹圓 全	森 舜司殿		
金壹圓 全	榊原 久殿	金壹圓 全	齋藤 友一殿	金壹圓 全	藤井 一雄殿		
金壹圓 全	鷹見 義郎殿	金壹圓 全	三國 範三殿	金壹圓 全	深澤 治三郎殿		
金壹圓 全	宇賀治 元造殿	金壹圓 全	納富 嘉太郎殿	金壹圓 全	近藤 琢磨殿		
金參圓 全	自大正三年度 至大正五年度 三ヶ年分	北村 信定殿	金壹圓 全	松村 喜一殿	金壹圓 全	小西 眞清殿	
金貳圓 全	自大正二年度 至大正三年度 二ヶ年分	島田 吉三郎殿	金壹圓 全	松崎 源次郎殿	金壹圓 全	江守 武殿	
金貳圓 全	中川 久成殿	金壹圓 全	三崎 吉太郎殿	金壹圓 全	有壁 一雄殿		
金壹圓 全	大正三年度分	西川 良造殿	金貳圓 全	自大正二年度 至大正三年度 二ヶ年分	井本 清吉殿	金壹圓 全	坂井 茂殿
金壹圓 全	石川 玄知殿	金壹圓 全	大正三年度分	渡邊 順吉郎殿	金壹圓 全	酒井 碩治殿	
金壹圓 全	國田 武雄殿	金壹圓 全	尾崎 平吉殿	金壹圓 全	栗林 信殿		
金壹圓 全	山崎 芳太郎殿	金壹圓 全	太田 垣道夫殿	金壹圓 全	近郷 重孝殿		

金壹圓	大正三年度分	坂井 迪太郎殿	金壹圓	大正三年度分	桑 折 直殿	金壹圓	大正三年度分	渡邊 九壽松殿
金壹圓	全	水口 史 郎殿	金壹圓	全	池 上 豐殿	金壹圓	全	岩崎 勝 治殿
金壹圓	全	新谷 成三郎殿	金壹圓	全	笠 雋吉郎殿	金壹圓	全	宮 川 薰殿
金壹圓	全	柴原 外男殿	金壹圓	全	堀田 圭三殿	金壹圓	全	宇佐美 保久殿
金壹圓	全	宮 井 勇殿	金壹圓	全	渡邊 八之進殿	金壹圓	全	正木 芳 隆殿
金貳圓	自大正二年度 至大正三年度	江 藤 潤 一殿	金貳圓	自大正二年度 至大正三年度	小出 貞次郎殿	金壹圓	全	木谷 義太郎殿
金壹圓	大正三年度分	松井 梅二郎殿	金壹圓	大正三年度分	丸谷 熊次郎殿	金壹圓	全	坂本 信 一殿
金壹圓	全	松坂 幸七郎殿	金壹圓	全	政山 龍 雄殿	金壹圓	全	彦坂 誠 一殿
金壹圓	全	西原 愛太郎殿	金壹圓	全	敷波 重次郎殿	金壹圓	全	伊 藤 善 次殿
金壹圓	全	坂本 修 吉殿	金壹圓	全	白 井 濟殿	金壹圓	全	竹村 茂 三殿
金壹圓	全	澤田 定 信殿	金壹圓	全	城 起吾老殿	金壹圓	全	谷中 黎次郎殿
金壹圓	全	淺 井 泰殿	金壹圓	全	北川 文 松殿	金壹圓	全	久津 明 一殿
金壹圓	全	秋野 定 吉殿	金壹圓	全	佐 藤 進殿	金壹圓	全	太田 卯三郎殿
金壹圓	全	寺尾 敬 三殿	金壹圓	全	佐竹 秀 一殿	金壹圓	全	西村 福太郎殿
金壹圓	全	江村 正 也殿	金壹圓	全	淺利 義 治殿	金壹圓	全	服部 暢 助殿
金壹圓	全	杉部 多米吉殿	金壹圓	全	赤尾 馨三殿	金壹圓	全	屋富 祖德次郎殿
金壹圓	全	菱川 瀧 太殿	金壹圓	全	國分 金 城殿	金壹圓	全	伊 藤 二 郎殿
金壹圓	全	平澤 嘉 圓殿	金壹圓	全	松田 武千代殿	金壹圓	全	中野 玄 次殿
金壹圓	全	春日 望 殿	金壹圓	全	仙場 松 齋殿	金壹圓	全	中川 良 忠殿
金壹圓	全	名取 博 三殿	金壹圓	全	高橋 八 郎殿	金壹圓	全	高田 信 弘殿
金壹圓	全	安澤 一 清殿	金壹圓	全	成澤 輝 一殿	金壹圓	全	都築 熊 藏殿
金壹圓	全	山崎 清 吉殿	金壹圓	全	八牧 政 孝殿	金壹圓	全	三股 梅 吉殿

金壹圓	大正三年度分	重松盛勝殿	金壹圓	大正三年度分	北村一清殿	金壹圓	大正三年度分	渡邊常三郎殿
金壹圓	全	鹽井竹次郎殿	金壹圓	全	千田常外殿	金壹圓	全	布村祥殿
金壹圓	全	矢原準一殿	金壹圓	全	松田研吉殿	金壹圓	全	梅澤亮吉殿
金壹圓	全	松原左武郎殿	金壹圓	全	城谷隣賢殿	金壹圓	全	岡田秀造殿
金壹圓	全	松山清殿	金壹圓	全	太田勘市殿	金壹圓	全	馬場穉殿
金貳圓	自大正二年度 至大正三年度二ヶ年分	磯貝一簀殿	金壹圓	全	鈴木忍殿	金壹圓	全	島田靜男殿
金貳圓	全	上池林治郎殿	金壹圓	全	玉森法靈殿	金壹圓	全	小林唯四郎殿
金壹圓	大正三年度分	松尾整殿	金壹圓	全	渡邊四郎殿	金壹圓	全	小林茂樹殿
金壹圓	全	眞緒修平殿	金壹圓	全	大武國治殿	金壹圓	全	久保襄一郎殿
金壹圓	全	松本常次殿	金壹圓	全	西村政吉殿	金壹圓	全	曾田米三郎殿
金壹圓	全	下條正夫殿	金壹圓	全	西勝人殿	金壹圓	全	佐藤武殿
金壹圓	全	佐々木純一郎殿	金壹圓	全	石橋三也殿	金壹圓	全	小島隆義殿
金壹圓	全	古屋榮治殿	金壹圓	全	山川宮三殿	金壹圓	全	守部康次郎殿
金壹圓	全	的場周造殿	金壹圓	全	片岡正殿	金壹圓	全	水口順殿
金壹圓	全	關根平殿	金壹圓	全	影山清美殿	以上		
金壹圓	全	米澤恭次殿	金壹圓	全	新八郎殿			
金壹圓	全	中元長三郎殿	金壹圓	全	増田貞吉殿			
金壹圓	全	塚原千津馬殿	金壹圓	全	松村魁殿	※		
金壹圓	全	竹内義一郎殿	金壹圓	全	増井榮太郎殿	※		
金壹圓	全	成田成治殿	金貳圓	自大正二年度 至大正三年度二ヶ年分	北川光雄殿	※		
金壹圓	全	中田德二殿	金壹圓	大正三年度分	山内順治殿	※		
金壹圓	全	金子多須計殿	金壹圓	全	鈴木實殿	※		